

み言葉は

いのちの言葉

シラ28, 2

隣人から受けた不正を赦せ。
そうすれば、願い求めるとき、お前の罪は赦される。

私たちは暴力の絶えない社会で生きており、「赦す」ことは困難な課題です。

信頼を裏切ったりして私を傷つけた人を、どうやって「赦す」ことができるでしょうか？

勇気の力

復讐したい衝動は、本能的なものでしょう。あるいは、人との関わりを断ち、残るものは恨みだけになります。

穏やかでない状況に際し、神のみ言葉は、最も難しく、勇気のいる解決策を、力強く要求しています。それは「赦す」ことです。

いつでもやりなおせる

私たち自身も間違いを犯しますし、そのたびに赦してもらいたいと切に願うものです。

「ゆるしてください。どうかやり直す機会をください、私をもう一度信じてください」と、頭を下げて願うことでしょうか。だとすれば、他の人も皆、同じではないでしょうか？ 私たちも、自分と同じように隣人を愛するべきではないでしょうか？

善をもって悪に勝つ

赦しは弱いからすることではありません。

赦しは、明確な自分の意志で自由に行う行為です。神が私たちの欠点にも関わらず、私たち罪人を受け入れてくださるように、たとえ兄弟姉妹が嫌なことをしても、相手をありのまま受け入れることです。

命です。

ヴィル 16 歳

赦すことはできる!

両親が別れてから、母親との関係が難しくなりました。前とは変わりました。

同じ家に住んでいても、息子としてではなく、育てる義務があるものとして扱われているのが感じられました。弟に対しても同じ態度でした。そのことがもつとつらいことでした。母の態度は、家でも外でもぼくを苦しめました。母に対する怒りを感じながら成長しました。長いことこのような時を過ごした後、母は、決心して失った時間を心に留めてやり直そうとしました。でもぼくはまだ母を心から受け入れることができないでいました。母がぼくにしたことには、消し去ることのできないものと感じられ、赦すことができませんでした。

よく考えれば考えるほど、このことが大きな苦しみでした。

「まず自分から赦さなくてはならない。全く新しい人として母親をみなくてはならない。」と自分自身に言い聞かせました。

このように自覚していても、母を愛することはとても難しいことでした。ある晚イエスと語りながら、母への愛が憎しみよりもずっと大きなものになるようにと祈りました。

今自分と闘いながら、小さなことを母への愛を表すためにしています。

母を愛するためには、新しい目で見なくてはならないと感じました。大切なことは、今は母が良いことをしてくれているということなのです。ぼくは、少しずつ赦す力をもつことができ、苦しみは過ぎ去りました。大切なのは、いつでもお互いに新しい目でみるようにし、間違える度に、やり直すことです。

君にもこんな経験がある?

